

はつらつ座安っ子



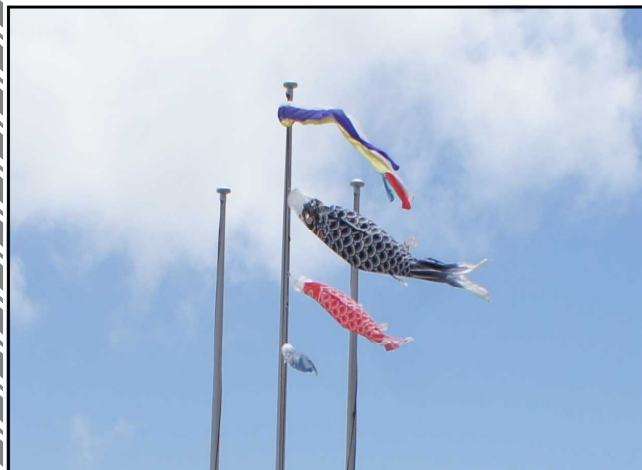
【学校だより: 令和4年4月 第3号】
豊見城市立座安小学校 校長: 眞志直哉

なかよく かしこく たくましく

～主体的に他者と協働し、豊かな学び方を身に付け、夢や目標を持って粘り強く生きる子～

座安小学校の全職員は、子どもたち1人ひとりを認め、受け入れ、持っている「可能性を拓き伸ばす教育」の実践をめざし、全力でがんばります！

大空を泳ぐ鯉のぼりのように、雄大にはばたけ座安っ子！



もうすぐGW、子どもの日がやってきます。

5月5日は「端午の節句」と言われ、江戸時代から「男の子のためのお祝い。病気や災いを避けるための行事」だったのですが、1948年に「こどもの日」となり、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日」となりました。この連休を通して親子の関わりや絆を深め、お子さんの大切さを改めて認識するとともに、お父さんも頑張っていますので、父母に感謝する日にしてほしいと思います。

さて、子どもの日に向けて「こいのぼり」をあげるのは、『大空を雄大に泳ぐこいのぼりのように、子ども達が健康で、自分の夢や目標に向かって頑張ることができるたくましい人になってほしい』という願いが込められています。

座安っ子たちも、そうありますように！ 雄大にはばたけ座安っ子！

連休中も、健康に気をつけて安全・安心に過ごして下さい

座安小の玄関をくぐると、正面に「兜（かぶと）飾り」が見えます。この飾りは、10年前、第 代校長の

氏が、座安っ子たちの健康と安全を願い、座安小学校に（豊崎小にも）プレゼントしたものです。

子どもの日に向けて、兜（かぶと）を飾るには、「兜が病気や事故から子ども達を守ってくださるように」という思いが込められています。座安っ子たちが連休中、そして1年中、コロナに負けず、安全・安心の中で、元気にすくすくと成長してほしいです。



座安小に「もりのきょじん」がやってきた！

4月26日、突如、座安小玄関のトロフィー棚の前に、なぞの「もりのきょじん」が表れました。登校した子ども達も「なんだ！なんだ！」とびっくり。物珍しげに中をのぞいたり、中に入って見たりして、休み時間も楽しんでくれています。ちなみに私（校長）や事務職員も中に入って遊んでみました。



「もりのきょじん」の制作者は、デザイナーの瑞慶山成人（ずけやまなると）さん。与根在住の方で、デザイン事務所のDECOR（デコール）の代表者です。瑞慶山さんに「もりのきょじん」ができた経緯を聞いてみました。「もりのきょじん」はイベントで子ども達と一緒に作ったアート作品です。使った材料はダンボール（スーパーで買ったもの）や落ち葉（ナンヨウスギやパンの木）、捨てられるもの、誰でも手に入るものを中心に、こんなものでもアート作品ができるんだ～と気付くきっかけになるといいなどはじめました。アートは手指を動かす・頭で考える・心で感じる・自由に創造でき、人に喜んでもらえる素敵な事だらけです。これから座安っ子にアートの輪を広げていきたいです。」

もりのきょじんの高さは1m70cmほど。トトロの世界を醸し出すように座安小の玄関を不思議ワールドに引き込み、子ども達をワクワクドキドキで楽しませています。

瑞慶山さんは昨年、糸満市のドリーム児童園の壁一面にカラフルで夢のある壁画を描き、琉球新報に取り上げられるなど活躍しています。今度、

をきっかけに など、本校の教育活動にも積極的に関わってくれています。「もりのきょじん」の出現はほんのきっかけかな。これから授業等教育活動へアートで関わってほしいし、もしかしたら、座安小の壁や扉なども子ども達といっしょに、明るく生き生きとした絵や飾りなどで彩られるのかも。楽しみだなあ。